

サンコール子会社、熊本でEV向け配電用部品工場を増設

2024/01/30 19:35 日本経済新聞電子版 346文字

自動車エンジン向けバネなどを手掛けるサンコールの子会社、サンコール菊池（熊本県菊池市）は、約7億円を投資して同市内の工場を増設する。電気自動車（EV）向け配電用部品バスバーを生産する製造ラインを新設し、人員も10人増やして約80人体制とする。EV市場拡大が世界的に加速するなか、生産体制の増強に踏み切る。

同社は熊本市内で30日、菊池市と立地協定締結式を開いた。計画ではEV向け部品で、省スペースで大容量の電力を流すバスバーの新たな生産設備導入に向けて1月に着工し、今年11月の稼働を見込む。既存の建物の中に新たに設備を配置し、EV用として年間12万台分を生産する計画だ。

締結式後に記者会見した同社の春田高宏社長は「脱炭素化に向けた、世界的なEV化の加速が背景にある」と設備新設の狙いを語った。



立地協定締結書を手にするサンコール菊池の春田社長Ⓔ
(30日、熊本市)

許諾番号30097363 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.